

令和元年度 学校関係者評価報告書

学校名：あいちビジネス専門学校

1 学校目標
 ・本学園の建学の精神「社会から喜ばれる知識と技術を持ち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する。」
 ・学生一人ひとりのニーズを満足させると共に、質の高い資格とスキルを持った良識ある職業人を育成する。
 ・「こたえを出す学校」として「夢をかたちに」を実現する。

学校目標に対する評価・意見

・「こたえを出す学校」として、運営方針、学校目標が、教育に対する方向性が統一された認識として示されており、就職率等から、社会に必要とされる人材育成が行えていると考えます。今後も魅力ある学校であり続けることを期待しています。
 ・課題について、学校でも認識し、十分取り組んでいるが、学校だけでは限界もあり、外部とのいっそうの連携が必要とされる項目もあるように感じた。
 ・コロナ渦の渦中で、逆に課題の解決のヒントとなる事案もあったかと思うので、今後の改善には、アフターコロナも見据えたもので合っていると嬉しい。
 ・新型コロナ禍において、生徒との対面コミュニケーションが取りにくい状況の中、環境整備を含むオンライン対応を進められた点は評価できる。
 ・インターンシップや実習、イベントの開催・参加等が困難な状況でも、関連・連携先や地域等との対外的な関係づくりに、もう少し何か工夫が出来るとよい。
 ・学生支援において、今後の改善方針に挙げられている既卒者対象のフォローについて着実に進めて頂き、さらに在校生のメリットへとつなげて行けるとよい。
 ・地域貢献において、高校との連携は年々活発にされており評価できるが、狭義の地域という視点からみると、清掃活動以外にも学びの成果を活かせる貢献ができないかと考える。
 ・新型コロナウイルスの影響による、社会生活や教育現場の変化を踏まえての取り組みや改善方をたてられていると思います。
 ・学校の自己評価は、適正な評価をされていると思います。
 ・自己評価は適切であり、それに対する取り組みも明確であると思われる。
 ・「学生支援」として卒業生の支援まで行き届くことができれば学校に対する社会からの評価は良くなります。地道ではありますが卒業後も学校と学生が繋がる関係の構築に期待します。
 ・各項目に対して適切な自己評価がなされていると思います。改善効果に期待します。
 ・資格取得数や退学者数は学校にとって大きな課題であると思います。しかし原因分析や今後の方策がきちんとされており、今後に期待できると感じました。
 ・一般的に適切な評価、課題認識、改善方針の検討がされていると判断できます。
 ・ただし、過年度の自己評価や委員会意見が当年度にどうなっているのか、個々の課題、改善方針に対する追跡を評価できるように見直しされることを推奨します。

2 学校自己評価報告書について

学校自己評価報告書基準	学校自己評価報告書についての評価点の平均		
	自己評価の結果が適切か	改善に向けた取組みが適切か	今後の改善方針が適切か
	4：適切な評価である 3：ほぼ適切な評価である 2：やや不適切な評価である 1：不適切な評価である	4：十分適切な取組みである 3：ほぼ適切な取組みである 2：あまり適切とはいえない取組みである 1：適切とはいえない取組み	4：十分な効果が期待できる 3：ほぼ十分な効果が期待できる 2：あまり効果が期待できない 1：効果は期待できず、改善を要する
基準1（教育理念・目標）	4	3.7	3.6
基準2（学校運営）	4	3.7	3.4
基準3（教育活動）	3.9	3.4	3.3
基準4（学修成果）	3.3	3.1	3.1
基準5（学生支援）	3.4	3.1	3.1
基準6（教育環境）	3.6	3.6	3.7
基準7（学生の受入れ募集）	4	3.9	3.9
基準8（財務）	4	4	4
基準9（法令等の遵守）	4	3.6	3.7
基準10（社会貢献・地域貢献）	3.6	3.1	3.1
基準11（国際交流）	3.6	3.1	3

3 今後の改善意見

・当グループ病院において、全国的に男性医療事務職員の確保に苦慮しています。貴校では、医療秘書科は女性のみの募集、医療事務科は男女募集はされてはいるものの、ホームページからは女性の職場のような印象を受ける。男性の活躍できる職種として、男子学生の募集にも努めていただきたい。
 ・改善には、外部との連携強化が必須である項目もあるかと思うので、それに向けた体制の強化（人員、予算等）が必要かもしれないと感じた。
 ・学習コンテンツとして質の高いWeb等の教材も存在するので、それらを併用するのも、最新情報取得等においては有効かもしれないと感じた。
 ・全ての職業に於いて、IT活用が必須となるので、IT系学科と販売系学科での取り組み（例えば地域貢献）ができると、お互いに刺激、発見になるのでは。
 ・オンライン対応やIT利活用については、ビジネスの必須スキルとなるため、校内の設備を活かし専攻科を問わずこのスキルを受講時に自然と身につけられるような講義を提供できるとよいのではないかと。
 ・生徒の学修成果を外に示す、または活かす機会として、学内ビジネスプランコンテストや地域の事業者と連携した地域おこしボランティア活動などを検討できないか。
 ・卒業生の話を聴く（または読む）機会、媒体があれば、学んだことがどう活かされるか生徒もイメージがわき、成長への動機づけになるのではないかと。
 ・新しい環境の中、よりweb化やデータ化への対応が急務の課題とされます。以前から課題としてあげられている、連動した情報システムの構築の早急な対応を期待しています。
 ・本来は、学生時代では、学校の内外で多くの人と交流し、人間関係の輪を広げ、人間性を豊かにできる時間のはずだと思っておりますが、残念ながらその機会が極端に少なくなっていると思います。可能な限り、オンラインでも構いませんが、多数の人たちとの交流ができるような取り組みを行っていただきたいです。
 ・新型コロナウイルスの流行により世界は一変しました。学校としての対策は十分に取られていますが、今後社会がどのように変わるのかをいち早く授業に取り入れていただきたいです。
 ・新型コロナウイルス感染拡大の為、今までの学校経営や教育が困難となっていると思います。オープンキャンパスや実績を見て入学していた学生の期待にこたえられるよう、今までと変わることのない教育活動（自宅学習整備・動画配信など）や環境整備（ネット環境・タブレットの支給など）を整え、学校外でも教育を受けられる体制構築を願います。
 ・就職管理システムの刷新検討が不十分で改善が必要と課題認識されているのですが、改善方針では触れられていないので、来年度の評価で確認したいと思います。同様にデータの一元化に対する課題認識が改善方針としてどのようになったかも確認したいと思います。
 ・卒業生の動向の調査把握は、カリキュラムの見直し、再就職支援、リカレント教育、など多方面にリンクしていきます。企業調査も含め積極的なアプローチを期待します。

4 今後の具体的な改善方針

・男子学生に限らず卒業生の業界での活躍を募集活動で伝えていく方針を検討、実施していく。まずはオープンキャンパスにおいて卒業生の職務内容、在学中の様子を伝える企画を実施予定。
 ・卒業生の就業状況を把握するため、卒業生もしくは卒業生の就職先へのアンケート実施を予定している。
 ・就職先アンケートの結果を踏まえ、学科の統廃合も視野に入れた学科編成や時代の流れに即したカリキュラムに変更を行う予定である。
 ・web化やデータ化については、今後出願においてインターネットを活用したシステムを導入予定である。計画が中断している就職システム、見直しが必要な教務システムについても中期計画において改善、新規システムの導入を検討していく予定である。